

## ～昔の道具を使って糸作り～



難しいなあ。



昔の人はすごいなあ。



▲糸車で綿から糸を紡いでみました

座繰りで繭から糸取り▶

文化財センターでは、体験を通して昔の暮らしに触れてもらおうと、糸車や座繰りを実際に動かして木綿糸や絹糸を作り、はた織り機で織る内容で「昔の暮らしを知る体験」を行いました。

今からおよそ60年前は昭和30年代。その頃の美浦村では会社勤めの方は少なく、農業に従事するの方が多く、また、着物を着ている人も多い、そんな時代でした。

今では民俗資料館や博物館でしか見ない、織物にかかわる道具は、当時、どこの家にもあった生活道具のひとつです。

糸車は綿から糸を引く道具で、当地域では“わく”と呼ばれていました。綿は植物なので畑で春に種まき、夏に開花、秋に実が開くとふわりとした綿が収穫されます。綿には種があり、ロクロと呼ばれる道具で種を取り、綿やで綿打ちしてもらった後、糸車で糸を紡ぎました。

一方、絹糸は蚕という昆虫の繭から作った糸です。農家では蚕を飼育し、繭は業者に売り、現金収入になりました。よくない繭は座繰りを使い、自家用に繭から糸をとっていました。作った糸は、色糸に染めて機織り機で織り、着物に仕立てたりしていました。

体験した人たちは実際に道具を動かしてみて、暮らしの中で伝えられていた技術や知恵を感じていたようです。

夏の暑さをしのいで

家族や

友だちと

# 文化財センターで楽しいひととき



8月15日（火）～20日（日）に文化財センターでは夏の縄文体験を開催しました。期間中は、帰省したご家族を連れて、また近所の友人とともに好きな体験メニューを選んで、和やかに楽しく体験を楽しんでいただきました。

表紙でご紹介した8月5日（土）～6日（日）におこなった「昔の暮らしを知る体験」にあわせて、8月中は綿が糸になり反物になる過程や安中木綿も

紹介しました。団体の体験受け入れもあり、文化財センターの8月は体験で賑わいました。

文化財センターでは、文化財に関わる体験や見学、講座などをおこなっていきますので、気になる内容がありましたらお気軽にご参加ください。また、5名以上のグループの体験受け入れも通年おこなっています。お問い合わせは文化財センターまで。

☎ 029 (886) 0291



縄文土器作り



火おこし



縄文クッキー



さき織り



まが玉作り



綿から布になるまで

～世に知られていた、  
その名は～

# あんじゅうもめん 安中木綿

安中木綿とは主に近世以降、常陸国信太郡安中村（現美浦村安中地区）において生産された綿を利用して作られた織物の名称です。

茨城県下で著名な織物として、結城紬および結城木綿、下館の真岡晒、龍ヶ崎の龍ヶ崎木綿、波崎の銚子縮、そして安中の安中木綿と並び称されていました。これらは原料である綿生産が盛んな地域で、主に農閑期の家内手工業として発達してきました。

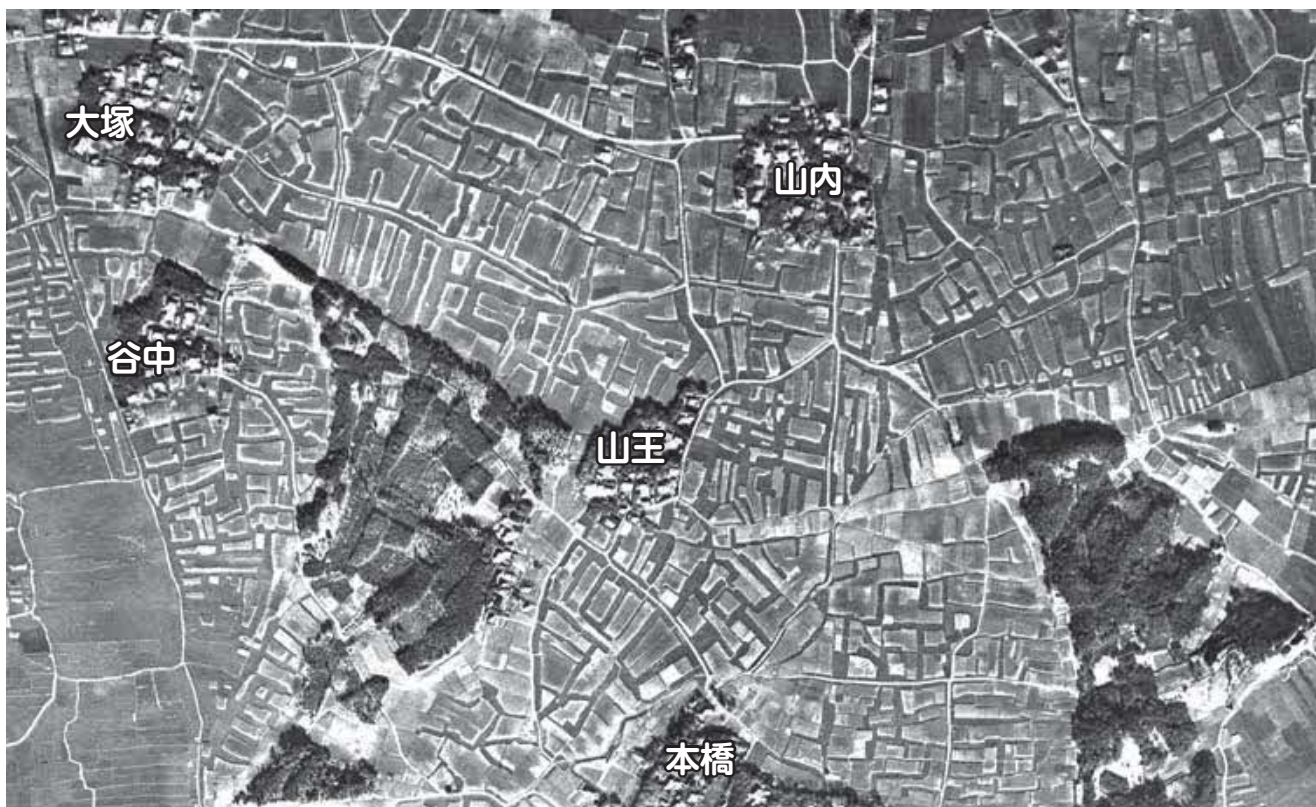
霞ヶ浦を望む安中村にはその湖岸沿いに砂州の発達が見られ、この砂質土の土地を利用した「島畑」という特徴的な畑で綿栽培が行われていました。しかもその作付面積は一村としては関東地方最大を誇っていました。

しかし明治期になると機械紡績の発達、原料である綿の輸入などにより、次第に生産形態の再編や衰退の道をたどることとなりました。特に安中木綿は年間一万反以上の産出を見ましたが、巷で「安中の丈なし木綿」と言われたように、その長さが二丈七尺と着物に仕上げるには短いことがあだとなり、明治18年に刊行された「茨城県勸業報告」によると、「(丈が短いのは) 最近の事ではなく、昔からの習慣で仕方がないことだが最近には特にはなはだしい。販売先は土浦、銚子などで、股引、足袋あるいは裏地などに使用されている。昨年一反の価格は36銭ほどである。安中木綿の名は既に世間に知れ渡っているのだから、改良して丈と幅を完全にすれば産物となるのに誠に惜しいことだ。」と評されています。明治10年代後半には市場での人気が振るわなくなり、次第のその名も聞かれなくなりました。

〔引用参考文献〕『茨城県史料＝近代産業編Ⅱ』1973

籠瀬良明「関東および周辺の戦後の綿作地域」『日本大学地理学科五十周年記念論文集—関東とその周辺—』1975

田野宏「霞ヶ浦南岸美浦村における島畑・掘下田の土地改良と土地利用変化」『研究紀要（地理）第21号』1986



島畑の様子 島畑は昭和30年代以降の圃場整備でみられなくなる

(昭和24年撮影、写真提供：国土地理院)

※安中木綿について現在調査中です。文化財センターまで情報をお寄せください。

陸平貝塚公園の秋のイベントのお知らせ

# おかだいら縄文フェスタ2023

10/7(土)  
10/8(日)

自然豊かな陸平貝塚で  
縄文笛のコンサートや陸平ならではの体験で楽しくすごそう。

## ◆縄文の森コンサート ～大地にひびく縄文の音色～

入場  
無料

【日時】 10月7日(土)  
開演：午後3時

【会場】 里山交流館付近(野外)  
※雨天時は文化財センター

【出演】 縄文笛 つよし

★縄文笛つよしさんと一緒に土笛を吹こう!★

コンサートで、つよしさんと土笛を吹いて楽しみましょう。

土笛は用意してありますが、お持ちの方は、土笛を持ってコンサートにご来場を!

じょうもんぶえ  
縄文笛 つよし

土笛・フルート奏者。

生まれながら視覚に障害を持つ。リコーダーの音に魅

せられ、その後、土笛と出会い、全国各地の遺跡にて演奏活動。これまでに陸平縄文ムラまつりや陸平貝塚国史跡指定記念「縄文から未来へ」(演奏、DVD収録)、縄文の森コンサートなど陸平貝塚のイベントに出演、参加。2015年にはパリで開催された「縄文展」のオープニング演奏をかざる。



## ◆体験の日

【日時】 10月8日(日) 午前10時～午後3時

【会場】 陸平貝塚公園(文化財センター、陸平貝塚、里山交流館)

【体験メニュー】

土笛、ミニ土器、縄文クッキー、花炭焼き、まが玉、弓矢、火おこし、ほか  
※体験料はメニューにより異なります。

【陸平貝塚見学ツアー】

11:00～、13:30～

【展示】 陸平をテーマにした俚謡、俳句、絵手紙作品

★復元竪穴住居の燻蒸(午前のみ)

★陸平オリジナルグッズ、竹炭など販売

<主催> 美浦村教育委員会  
<共催> 陸平をヨイショする会  
<お問合せ先>

美浦村文化財センター  
美浦村土浦2359  
☎029-886-0291



### 陸平貝塚公園までの交通アクセス

【車】 by car  
常磐自動車道「桜土浦IC」より  
国道125号バイパスで約40分  
圏央道「稲敷」より15分  
【バス】 by bus  
JR土浦駅より西口①バスのりば  
木原経由江戸崎行き  
「谷津入」下車 タクシーで約5分  
または「大谷」下車 3.5km

